



消費者参加型  
「国産有機農産物の販売状況調査」

消費者は普段のスーパーマーケットで  
どれだけオーガニックの野菜やお米が買える？

2017年5月

**GREENPEACE**

## はじめに

有機農産物への関心は年々高まり、2009年から2015年にかけて日本の有機農業の生産面積は1.62倍に増加している<sup>1</sup>。一方、グリーンピース・ジャパンが2016年に行った大手小売店へのアンケートによると、有機農産物の取り扱いが多い小売店でも全体の5%と伸びしろがある<sup>2</sup>。

消費者は、実際の買い物でどれだけ国産のオーガニック野菜、果物、米を手にとることができるだろうか。グリーンピース・ジャパンは、消費者が普段使うスーパーマーケットにおける国産の有機農産物の品揃えを把握するため、スーパーマーケット60店舗を対象に、調査協力者32名による消費者参加型の買い物を通じた調査を実施した。

## 調査結果のまとめ

- 有機農産物の販売は都市部などを中心に広がっているが、ほとんど販売されていない地域もあり、全国のすべての消費者が身近に購入できる状況ではない。
- 全体の78%の店舗がオーガニックコーナーを設置していた。オーガニックコーナーがある店舗の平均品目数は、コーナーが無い店舗より6倍多かった。
- オーガニックの米(玄米、精米)はどの店舗でも販売されていなかった。
- 傷んだ商品があることや、店員の有機農産物の理解力が乏しいなど、店舗側の課題がわかった。

## スーパーマーケットへの提言

- 地域による品揃えの差を抑え、全国の消費者が有機農産物を購入できる状況に改善する。特にオーガニックの国産米の導入を強化する。
- 有機農産物を販売している以上、消費者の意識を向上させる工夫が必要。
- 消費者に有機農産物の良さを伝えるためには、店員の理解の向上は必須であり、勉強会などを開きオーガニックの良さを知る機会を増やす。

---

<sup>1</sup> 農林水産省生産局農業環境対策課「有機農業の推進について」2017年2月。

<sup>2</sup> 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン「Go オーガニックランキング - 消費者が求める食の安全と生態系農業への小売店の責任」2016年5月。

## 調査の概要

本調査では、調査協力者 32 名が対象スーパー60 店舗に行き、その当日、店舗内で見つけることができた対象の有機農産物を全て一点ずつ購入し、その品目数を記録した。類似の調査を 2016 年に有機農業推進協会が実施している<sup>3</sup>。

本調査で対象とした商品は、有機 JAS 認証を取得した国産の農産物(野菜・果物・米)のみで、外国産や加工品は除いた。国産の農産物のみを対象とした理由は、各小売店が外国産の輸入に頼るのではなく、国産の有機農産物の取り扱いを増やし、地域に根付いた有機農業を推進するよう働きかけるためである。小売店 3 社の商品を同じ条件でカウントするため、以下の基準を設けた。

- ・ 外国産は除く。
- ・ スティック野菜、ドライフルーツ、水煮など加工品は除く。
- ・ ミックスサラダやベビーリーフミックスなど複数の野菜を混ぜ合わせた商品は除く。
- ・ 商品は品目ごとにカウント。
- ・ 産地が異なる同じ商品(にんじん茨城県産とにんじん千葉県産など)は一品目としてカウント。
- ・ レタス類(サニーレタス・リーフレタスなど)やもやし類(緑豆もやし・大豆もやし)などは一品目としてカウント。
- ・ 品切れの商品は、調査協力者が記録することができたものはカウント。

## 調査した小売店

イオンリテール株式会社、株式会社ライフコーポレーション、生活協同組合連合会コープネット事業連合(以下、イオン、ライフ、コープネット事業連合)の 3 社から各 20 店舗、合計 60 店舗。イオンは「イオン」と「イオンスタイル」、ライフは「ライフ」と「セントラルスクエア」、コープネット事業連合は「コープみらいのお店(ミニコープを除く)」を対象とした。

選択理由:グリーンピース・ジャパンは、2016 年 5 月から 2017 年 1 月にかけて、上記 3 社を含む大手小売店 6 社と 1 生協に、有機農産物の取り扱いを強化するよう要望する「GO オーガニック署名」を実施し、署名 1 万 2,034 筆を提出した<sup>4</sup>。今回の調査では、署名を提出した 7 社のうち、大手総合スーパー、食品スーパー、生協から各 1 社ずつ、今後、有機農産物の取り扱い方針を増やすことに積極的な企業を対象とした<sup>5</sup>。

## エリア 以下の計 10 都府県

- ・イオン 関東、中部、近畿、九州(東京都、神奈川県、埼玉県、愛知県、京都府、長野県、兵庫県、福岡県)
- ・ライフ 関東(東京都、神奈川県、千葉県)・近畿(大阪府、京都府)
- ・コープネット事業連合 関東(東京都、埼玉県、千葉県)

## 調査期間

2017 年 4 月 1 日から 4 月 30 日。

<sup>3</sup> 特定非営利活動法人有機農業推進協会 外園信吾「日本における有機農産物の流通・購入ルートをめぐる近年の動向―店舗・宅配での取扱状況を中心に―」第 17 回日本有機農業学会大会個別報告. 2016 年 12 月.

<sup>4</sup> 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン 「『GO オーガニック署名』要望事項に関する質問票回答集計」2017 年 4 月 19 日. <http://www.greenpeace.org/japan/global/japan/pdf/20170419-supermarket-answer.pdf>

<sup>5</sup> 署名の提出をうけて、コープネット事業連合、イオンは、今後、有機農産物の取り扱い方針を増やすと回答している。ライフは有機農産物の取り扱いを増やすという回答はなかったが、2016 年 6 月にオーガニック食品の扱いを強化した新店舗「ピオラル」を開店したため、今後の動向に注目して対象とした。

## 調査結果：スーパー別 イオン(20店舗)

品目数	平均 13.1
	最大 29(イオンスタイル碑文谷:東京都)
	最小 0(イオン須坂店:長野県)
オーガニックコーナー設置店舗	13 店舗(全体の 65%) 平均品目数 18.8
オーガニックコーナーがない店舗	7 店舗 平均品目数 2.6

No.	店舗名	都道府県	品目数	オーガニックコーナーの有無
1	イオンスタイル碑文谷店	東京	29	○
2	イオン八事店	愛知	27	○
3	イオンスタイル多摩平の森	東京	26	○
4	イオン新百合ヶ丘店	神奈川	25	○
5	イオン熱田店	愛知	25	○
6	イオン 新瑞橋店	愛知	24	○
7	イオン品川シーサイド店	東京	23	○
8	イオン練馬店	東京	15	○
9	イオンスタイル幕張新都心	千葉	15	○
10	イオン幕張店	千葉	13	○
11	イオン茅ヶ崎中央店	神奈川	12	○
12	イオン大牟田店	福岡	8	○
13	イオンつきみ野店	神奈川	4	X
14	イオン相模原店	神奈川	4	X
15	イオンスタイル京都桂川	京都	3	X
16	イオン豊川店	愛知	3	X
17	イオン大和店	神奈川	2	X
18	イオン洲本店	兵庫	2	○
19	イオン中野店	長野	2	X
20	イオン須坂店	長野	0	X

### 評価

20 品目以上の店舗もあれば、ほとんどオーガニック商品がない店舗もあり、品揃えの差が大きい。都市部以外にある店舗に有機農産物を広げていくことが今後期待される。

- ・東京都・愛知県にある店舗の品揃えは最大で 29 品目と豊富であったが、京都府、神奈川県(新百合ヶ丘を除く)、兵庫県、長野県の店舗は 5 品目以下だった。
- ・調査協力者からは豊富な品揃えへの驚きと、全く無かったという落胆の両方の感想があった。4 品目以下の店舗の商品は、もやし、かわれ大根、ブロッコリースプラウト等がほとんどであり、消費者が満足する品揃えではない。
- ・国産の有機果物は、レモン、キウイがあった。国産のオーガニック米はない。
- ・オーガニックコーナーには、「イオン農場」による PB の商品も多く見られる。主な産地は、千葉県・茨城県・高知県など。

イオンスタイル碑文谷(東京都、29 品目)



イオン大和店(神奈川県、2 品目※もやし類は 1 品目としてカウント)



## ライフ(20 店舗)

品目数 平均 11.2
最大 18(セントラルスクエア森ノ宮店:大阪府、セントラルスクエア押上店:東京都)
最小 0(ライフ京橋店:大阪府)
オーガニックコーナー設置店舗 18 店舗(全体の 90%) 平均品目数 12.1
オーガニックコーナーがない店舗 2 店舗 平均品目数 3

No.	店舗名	都道府県	品目数	オーガニックコーナーの有無
1	セントラルスクエア押上店	東京	18	○
2	セントラルスクエア森ノ宮店	大阪	18	○
3	ライフ若松河田駅前店	東京	15	○
4	ライフ神田和泉町店	東京	15	○
5	セントラルスクエア高殿店	大阪	15	○
6	ライフ中野駅前店	東京	14	○
7	ライフ千川駅前店	東京	14	○
8	セントラルスクエア西宮原店	大阪	14	○
9	ライフ吉祥寺駅南店	東京	11	○
10	ライフ錦糸町駅前店	東京	11	○
11	セントラルスクエア西大路花屋町店	京都	11	○
12	セントラルスクエア北島店	大阪	11	○
13	ライフ宮崎台店	神奈川	10	○
14	ライフ旭大宮店	大阪	10	○
15	ライフ中目黒店	東京	8	○
16	ライフ相模大野店	神奈川	8	○
17	ライフ戸塚汲沢店	神奈川	7	○
18	ライフ松戸二十世紀ヶ丘店	千葉	7	○
19	ライフ南台店	東京	6	X
20	ライフ京橋店	大阪	0	X

### 評価

オーガニックの品揃えは、最大で 18 品目とイオンには劣るが、京橋を除いた全ての店舗で最低 6 品目以上の農産物があり、店舗ごとの差は比較的少ない。

- ・本社がある大阪府を中心に展開しているセントラルスクエアは、店内が広く品揃えが豊富であり、全店舗とも 10 品目以上あった。首都圏は駅の近くにある店舗が多い。
- ・商品:10 品目以上ある店舗でも、品切れの商品が多くあった。6 品目以下の店舗では、にんじん、玉ねぎ、ほうれん草などが置いてあった。
- ・国産の有機果物は、レモン、甘夏があった。オーガニックの米は無いが、ネオニコチノイド系農薬を使用しない「コウノトリ育むお米」の取り扱いが大阪府の店舗に見られた。
- ・オーガニックコーナーにある商品はほとんどが国産の PB である。主な産地は茨城県、熊本県、宮崎県など。

セントラルスクエア押上店(東京都 18品目\*品切れの商品が多かった)



ライフ南台(東京都 6品目)



## コープネット事業連合(20店舗)

品目数	平均 6.2
	最大 13(コープ高倉店、柴崎店:東京都)
	最小 0(コープ板橋駅前店:東京都)
オーガニックコーナー設置店舗	16 店舗(全体の 80%) 平均品目数 7.6
オーガニックコーナーがない店舗	4 店舗 平均品目数 0.8

No.	店舗名	都道府県	品目数	オーガニックコーナーの有無
1	コープ高倉店	東京	13	○
2	コープ柴崎店	東京	13	○
3	コープ下連雀店	東京	9	○
4	コープみらい市川店	千葉	9	○
5	コープ新松戸店	千葉	8	○
6	コープ田端店	東京	8	○
7	コープ南浦和店	埼玉	8	○
8	コープ戸山店	東京	8	○
9	コープ若葉台店	東京	7	○
10	コープ関町店	東京	7	○
11	コープ上井草店	東京	7	○
12	コープ亀有店	東京	6	○
13	コープ中野中央店	東京	6	○
14	コープ東伏見店	東京	5	○
15	コープ上木崎店	埼玉	4	○
16	コープみらい府中寿町店	東京	4	○
17	コープ牟礼店	東京	1	×
18	コープ西調布店	東京	1	×
19	コープ調布染地店	東京	1	×
20	コープ板橋駅前店	東京	0	×

### 評価

宅配が専門の生協ということもあるが、店舗での品揃えは最大値も平均値もイオンの半分以下。コープみらいのお店に行けば有機農産物が揃うという状況ではない。

- ・10 品目を超えていた店舗は、高倉店、柴崎店のみ。1 品目しかない店舗は、西調布店、調布染地店、牟礼店の 3 店舗。板橋駅前店は 0 品目だった。
- ・4 品目の店舗では玉ねぎ、ほうれん草、じゃがいもなどが販売されていた。1 品目のみの牟礼店は玉ねぎ、西調布店、調布染地店は大葉が置いてあった。
- ・国産の有機果物・米はなかった。
- ・オーガニックコーナーにある商品はほとんどが国産野菜である。主な産地は千葉県、北海道など。



コープ高倉店(東京都 13品目)



コープコープ西調布店(東京都 1品目)



## 全体(60店舗)

品目数 平均 10.2	最大 29	最小 0
オーガニックコーナー設置店舗	47 店舗	w 平均品目数 12.4
オーガニックコーナーがない店舗	13 店舗	平均品目数 2.1

No. 店舗名	都道府県	品目数	コーナー	No. 店舗名	都道府県	品目数	コーナー
1 イオンスタイル碑文谷	東京	29	○	31 ライフ中目黒店	東京	8	○
2 イオン八事店	愛知	27	○	32 ライフ相模大野店	神奈川	8	○
3 イオンスタイル多摩平の森	東京	26	○	33 コープ新松戸店	千葉	8	○
4 イオン新百合ヶ丘店	神奈川	25	○	34 コープ田端店	東京	8	○
5 イオン熱田店	愛知	25	○	35 コープ南浦和店	埼玉	8	○
6 イオン 新瑞橋店	愛知	24	○	36 コープ戸山店	東京	8	○
7 イオン品川シーサイド店	東京	23	○	37 ライフ戸塚汲沢店	神奈川	7	○
8 セントラルスクエア押上店	東京	18	○	38 コープ若葉台店	東京	7	○
9 セントラルスクエア森ノ宮店	大阪	18	○	39 コープ関町店	東京	7	○
10 イオン練馬店	東京	15	○	40 コープ上井草店	東京	7	○
11 イオンスタイル幕張新都心	千葉	15	○	42 ライフ松戸二十世紀ヶ丘店	千葉	7	○
12 ライフ若松河田駅前店	東京	15	○	41 ライフ南台店	東京	6	X
13 ライフ神田和泉町店	東京	15	○	43 コープ亀有店	東京	6	○
14 セントラルスクエア高殿店	大阪	15	○	44 コープ中野中央店	東京	6	○
15 ライフ中野駅前店	東京	14	○	45 コープ東伏見店	東京	5	○
16 ライフ千川駅前店	東京	14	○	46 イオンつきみ野店	神奈川	4	X
17 セントラルスクエア西宮原店	大阪	14	○	47 イオン相模原店	神奈川	4	X
18 イオン幕張店	千葉	13	○	48 コープ上木崎店	埼玉	4	○
19 コープ高倉店	東京	13	○	49 コープみらい府中寿町店	東京	4	○
20 コープ柴崎店	東京	13	○	50 イオンスタイル京都桂川	京都	3	X
21 イオン茅ヶ崎中央店	神奈川	12	○	51 イオン豊川店	愛知	3	X
22 ライフ吉祥寺駅南店	東京	11	○	52 イオン大和店	神奈川	2	X
23 ライフ錦糸町駅前店	東京	11	○	53 イオン洲本店	兵庫	2	○
24 セントラルスクエア西大路花屋町店	京都	11	○	54 イオン中野店	長野	2	X
25 セントラルスクエア北畠店	大阪	11	○	55 コープ牟礼店	東京	1	X
26 ライフ宮崎台店	神奈川	10	○	56 コープ西調布店	東京	1	X
27 ライフ旭大宮店	大阪	10	○	57 コープ調布染地店	東京	1	X
28 コープ下連雀店	東京	9	○	58 イオン須坂店	長野	0	X
29 コープみらい市川店	千葉	9	○	59 ライフ京橋店	大阪	0	X
30 イオン大牟田店	福岡	8	○	60 コープ板橋駅前店	東京	0	X

- ・ 全体の 78%のスーパーがオーガニックコーナーを設置していた。オーガニックコーナーがある店舗の平均品目数はない店舗よりも6倍多かった。
- ・ 10品目以上の有機農産物を販売している店舗は28店舗で、全体の46.7%。東京都、愛知県、神奈川県、大阪府、千葉県、京都府にある店舗。
- ・ オーガニックの米がある店舗は一つもなかった。

## 調査協力者からのコメント

調査協力者は、購入記録用紙に記録とともに店舗で有機農産物を買物した際の感想を記入した。感想は自由回答であったが、特に、1)鮮度、2)店員の理解力、3)品数の少なさへの驚き、について多くのコメントが多くあった。

### ・品揃えの少なさに対する驚き

「品揃えの少なさに驚いた」というコメントは 13 件あり、これは全体の 21.7%に当たる(イオン 7 件、ライフ 1 件、コープネット事業連合 5 件)。店舗が大きいだけに期待して店舗に行ったが、品揃えの少なさに驚きを隠せないコメントが多かった。

#### コメント抜粋

「店舗自体の大きさに比べて、圧倒的にオーガニック商品が少ないのに驚いた。」(イオン相模原店)

「コープだけに期待していたが、意外と少なくて驚いた。」(コープ下連雀店)

### ・鮮度

鮮度が不満というコメントが 9 件あった(イオン 5 件、ライフ 3 件、コープネット事業連合 1 件)。これは全体の 15%である。さらに、購入した時点で傷んでいたというコメントは 4 件あった。鮮度の問題は、意図せずわかった結果であったが、高価格かつ傷んでいる・鮮度が悪いオーガニック商品に消費者が価値を見出すことはないため、スーパーは真剣に受け止めるべきである。

#### コメント抜粋

「開封すると腐り始めていたり、水気がなくなって変色したり。しわができていたり、一部を取り除かないと食べられないものがあった。問題ないものは 13 品目のうち 4 品目のみ。」(イオン茅ヶ崎店)

「水菜と玉ねぎは傷んでいた。」(ライフ松戸二十世紀ヶ丘店)

### ・店員の理解力

店員にオーガニック商品に関する質問をしたが、理解力が乏しかったという内容のコメントが 8 件あった(イオン 4 件、ライフ 2 件、コープネット事業連合 2 件)。これは全体 13.3%である。各店舗のオーガニックコーナーには、説明の POP も設置されてるが、全ての定員が理解しているわけではないようだった。小売店がオーガニックを普及させるためには、従業員の勉強会などを積極的に開催するなどして、従業員にもオーガニックの良さを知ってもらうことが期待される。

#### コメント抜粋

「オーガニックコーナーを聞いたらお店の人が地元野菜コーナーを教えてくれるなど、売る人がわかっていない感じがした。」(コープみらい新松戸店)

「(有機野菜が)見当たらなかったの、店員さんに確認したところ、有機野菜がどういったものなのか認識が曖昧だったようで、上司に確認をとって下さいました。」(コープみらい板橋駅前店)

## 調査結果のまとめ

全体の 78%のスーパーがオーガニックコーナーを設置しているなど、有機農産物の広がりを見ることができるが、地域別で見るとほとんど販売されていない地域も多く、全ての消費者が身近に購入できる環境ではない。特に、オーガニックの米はどの店舗でも販売されていなかったが、水田での農薬散布はミツバチなど生態系への被害が指摘されており、環境の側面からもオーガニックの米を積極的に販売する必要がある。調査協力者によるコメントから、傷んだ商品があったり、店員の有機農産物の理解力が乏しいなど、店舗側の課題があることがわかった。スーパーは継続して国産の有機農産物の取り扱い強化に力を入れるべきである。

国産の有機農産物を販売し、地産地消を促す取り組みは、地域の生産者と消費者のつながりを深め、輸入品に頼らず食料の自己決定権を強める観点からも推奨される取り組みである。さらに地元の生産者が、農薬による健康リスクが低く、環境にも優しい有機農業などの生態系農業へ移行できるようサポートを行うなど、小売店が果たせる役割を探ることを期待する。

発行・問い合わせ先

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル 2F  
Tel. 代表: 03-5338-9800 Fax. 03-5338-9817  
[www.greenpeace.org/japan](http://www.greenpeace.org/japan)

食と農業担当: 石原 謙治

表紙写真: © Kengo Yoda / Greenpeace